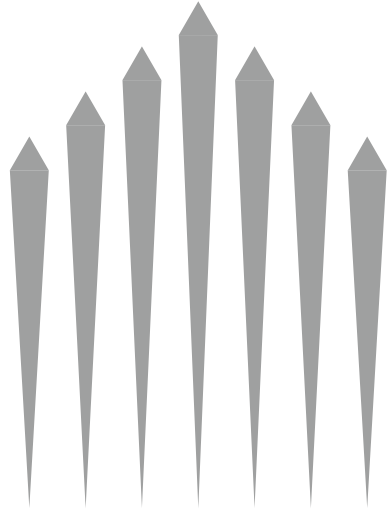


平成29年度

掛川市二の丸美術館  
掛川市ステンドグラス美術館  
年報

掛川市二の丸美術館  
掛川市ステンドグラス美術館







平成29年度 二の丸美術館 展覧会一覧

No.	展覧会名	会期	日数	入館者数(人)		
				有料	無料	計
1	木下コレクションⅡ 蒔絵と彫金 - 明治工芸の粋 -	4/1 ~ 5/7	33	2,709	872	3,581
2	名画は語る 和と洋の近・現代 絵画展	5/14 ~ 7/2	44	1,998	895	2,893
3	MOA 美術館所蔵品特別展示 黄金の茶室と 現代日本美術の粋	7/15 ~ 8/27	40	4,918	2,314	7,232
4	引き込まれる空間 動き出すたまごたち - 今堀邦子展 -	9/2 ~ 10/15	38	1,853	904	2,757
5	かけがわ茶エンナーレ企画展 大庭大介・ 竹廣泰介展	10/21 ~ 12/3	38	2,868	2,162	5,030
6	市民芸術祭優秀作品展と 掛川ゆかりの 美術展	12/7 ~ 12/24	16	0	1,289	1,289
7	名品と出会う - 企業コレクションによる 日本近代洋画展 -	12/29 ~ 2/25	51	2,270	756	3,026
8	木下コレクション 工芸品をたのしむ - 小さきものみな美し -	3/3 ~ 3/31	25	1,906	535	2,441
平成29年度 計			285	18,522	9,727	28,249



第1回

木下コレクションⅡ

蒔絵と彫金-明治工芸の粋-

平成29年4月1日(土)～5月7日(日)

近世以降、異国文化の流入とともに西欧諸国にもたらされた日本の美術工芸品。その中でも漆工芸品は、日本特有の繊細な技法と華やかな意匠で人気を博し、その美しさはヨーロッパの人々を魅了し、「漆」=“Japan”と称されました。

本展覧会では、工芸品「木下コレクション」より、この漆を基盤とした幕末から明治期の超絶技巧が映える、艶やかで装飾性の高い「蒔絵」と、金属の可能性を極限まで追求した「彫金」作品約60点、煙草道具や印籠・櫛かんざしなど、細密工芸品約200点を選定し紹介しました。

また今回は、特別に幕末・明治期の工芸品蒐集で知られる京都・清水三年坂美術館の作品のうち、薩摩焼3点と印籠2点を展示し、さらに、名工加納夏雄の技巧が冴える「茄子」置物を初公開しました。

これらの作品と「木下コレクション」を通し、繊細で華麗な江戸・明治工芸の粋を存分に堪能いただける展覧会となりました。

第1展示室 蒔絵と彫金

\*は清水三年坂美術館所蔵作品

作品名	作者	制作年代	材質・技法	
茄子置物	加納夏雄	江戸-明治時代	赤銅・銀・四分一・金(キリギリス)	個人蔵
風景図花瓶	藪明山	明治-大正時代	薩摩焼(陶画)	*
芝山細工対花瓶	無銘	明治時代	木/金蒔絵・螺鈿・象牙・珊瑚・べっ甲象嵌	
日本三景図蒔絵両紙文庫	無銘	明治時代	木・漆/平蒔絵・高蒔絵・研出蒔絵	
安芸の宮島図蒔絵硯箱	無銘	明治時代	木・漆/平蒔絵・高蒔絵・研出蒔絵	
芭蕉図蒔絵棚	無銘	明治時代	木・漆/平蒔絵・研出蒔絵	
桜花図蒔絵手箱	柳澤一抱	明治-大正時代	木・漆/金高蒔絵・平蒔絵・螺鈿	
菊花流水小紋散らし蒔絵提重	無銘	江戸-明治時代	木・漆/金平蒔絵・高蒔絵	
象に唐子図象嵌手箱	無銘	明治時代	木・漆/金蒔絵・銀・四分一・象牙	
鉄地金銀象嵌人物図大飾皿	京都・駒井	江戸時代	鉄・金・銀・赤銅・四分一	
鉄地金銀象嵌武者図対花瓶	京都・駒井	江戸時代	鉄・金・銀・赤銅・四分一	
鉄地金銀象嵌蓮に蛙蟹図対花瓶	京都・駒井	江戸時代	鉄・金・銀・赤銅・四分一	
銅地金銀象嵌蛸図花瓶	塚田秀鏡	明治時代	銅・金・銀・四分一	
赤銅地金銀象嵌牡丹図瓶掛	桂光春	大正時代	赤銅・金・銀・四分一	
鉄地金銀象嵌神農図手箱	村上真鏡	明治時代	鉄・金・銀・赤銅・四分一	
銅地網代文彫り花瓶	無銘	明治時代	銅・金・四分一	
芥子螺鈿蒔絵手箱	藪明山	明治-大正時代	木・漆/金蒔絵・螺鈿	
風景図碗	巧山	明治時代	薩摩焼(陶画)	*
猿図碗	蒔絵:寿秀	明治時代	薩摩焼(陶画)	*
舞楽図印籠	金工:矩遣	幕末-明治時代	蒔絵/金工	*
七福神図印籠	無銘	幕末-明治時代	蒔絵	*



第2展示室 たばこ入れ

作品名	制作年代	材質技法【前金具】
<b>腰差したばこ入れ</b>		
金唐革腰差したばこ入れ	江戸-明治時代	素銅打出し彫り 紅葉 (銘 夏雄)
金唐革腰差したばこ入れ	〃	金地色絵打出し彫り 五福神 (銘 美盛)
金唐革腰差したばこ入れ	〃	鉄地容彫り金象嵌 松樹
茶蒲団革腰差したばこ入れ	〃	金打出し彫り 根松
古面尽くし文絵革腰差したばこ入れ	〃	木製 呉女・呉公面 (銘 鉄哉花押)
唐花文絵革腰差したばこ入れ	〃	銀地金四分一色絵打出し彫り 高砂 (銘 矩随)
藍黄縞毛織腰差したばこ入れ	〃	銀地金色絵打出し彫り 鬼の念仏 (銘 光長花押)
<b>一つ提げたばこ入れ</b>		
金唐革一つ提げたばこ入れ	〃	金容彫り 牡丹 (銘 雄)
唐花文金更紗一つ提げたばこ入れ	〃	金打出し彫り 牡丹 (銘 一宮越前大掾)
甲比丹縞一つ提げたばこ入れ	〃	素銅打出し彫り 土筆
黒棧留革巾着形一つ提げたばこ入れ	〃	—
<b>提げたばこ入れ</b>		
金唐革提げたばこ入れ	〃	銀打出し彫り 牡丹 (銘 法眼明龍)
千筋黄燻革提げたばこ入れ	〃	
<b>とんこつたばこ入れ</b>		
栗の実形とんこつ腰差したばこ入れ	〃	木製 (櫟) 蔦蒔絵に蜻蛉螺鈿象嵌
竹見立て塗りとんこつ腰差したばこ入れ	〃	木製 竹見立て塗 (銘 はし一)
虫尽くし図とんこつ一つ提げたばこ入れ	〃	木製 (桐) 蜻蛉・蟬・蝶象嵌



名画は語る

## 和と洋の近・現代絵画展

平成29年5月14日(日)～7月2日(日)

掛川市二の丸美術館では平成10年の開館以来、鈴木始一氏のコレクションである近代日本絵画の数々をご紹介してきました。氏のコレクションには、横山大観・川合玉堂・竹内栖鳳など、近代日本画界の重鎮とされた画家たちが名を連ねています。作品は、華やかな花鳥画から抒情あふれる風景画まで多岐にわたり、その美しい色調と独自の世界観は、日本の伝統美を映し出すものとして、これまで多くの皆さまの支持を得てきました。

本展覧会では、この鈴木始一氏のコレクションに加え、鈴木政昭氏の洋画コレクションをあらたに展示しました。氏は西洋美術を主軸に、ステンドグラスのほか、油彩画・版画・調度品まで多種多彩な西洋美術品を蒐集してこられました。今回は、その中から近現代の油彩画と版画作品を中心に紹介しました。

近代絵画史の中で、相違いながらも歩み寄ってきた「日本画」と「洋画」、その双方の魅力を両鈴木氏のコレクションを通し、ご堪能頂ける機会となりました。

### 【鈴木政昭コレクション】

No.	作品名	作者	
1	聖書風景	ジョルジュ・ルオー	油彩
2	北国の春	小林和作	油彩
3	ばら	鈴木信太郎	油彩
4	阿蘇山	田崎広助	油彩
5	人物 1972	麻生三郎	油彩
6	裸婦	宮本三郎	油彩
7	黒川能	森田茂	油彩
8	私の村の酔っ払い	鴨居玲	油彩
9	日月黄金朝陽富士	絹谷幸二	ミクストメディア
10	越後瞽女(ごぜ)日記 おいとの愁(うれ)い	斎藤真一	油彩
11	シャンゼリゼの女たち	織田廣喜	油彩
12	朽葉(くちば)と虫	加山又造	銅版画
13	雨	加山又造	銅版画
14	熱帯魚	加山又造	銅版画
15	笛を吹く子どもたち	ラファエル・コラン	パステル
16	静寂	ポール・デルヴォー	リトグラフ



## 【鈴木始一コレクション】

No.	作品名	作者	制作年代	
1	海嘯 かいとん	横山大観		紙本着色
2	鵜飼	川合玉堂	1933年頃	絹本着色
3	夕月	川合玉堂	1931年頃	絹本着色
4	初夏の花	結城素明		絹本着色金泥
5	宋三彩劃花壺 そうさんさいかくかつぼ	山村耕花	1921年	絹本着色
6	罌粟 けし	山村耕花		絹本着色
7	滝	田中頼章		絹本着色
8	洋壺 ようつぼ	小倉遊亀	1958年	紙本金地着色
9	鯉	徳岡神泉		紙本墨画淡彩
10	壺	前田青邨		紙本着色
11	りんご	福田平八郎	昭和30年代	紙本着色
12	秋の実り	竹内栖鳳		絹本着色
13	秋の山	小野竹喬	1950年頃	絹本着色
14	双鯉 そうり	堅山南風		紙本着色金泥
15	花	北沢映月		紙本着色
16	金魚	奥村土牛	1951年頃	紙本着色
17	早春	奥村土牛	1951年頃	紙本着色
18	萌春 ほうしゅん	東山魁夷		絹本着色





MOA美術館所蔵品特別展示

## 黄金の茶室と現代日本美術の粋

平成29年7月15日(土)～8月27日(日)

本展覧会は熱海市にある MOA 美術館のコレクションより、復元された黄金の茶室と茶の湯の道具、そして人間国宝の作品を中心とする現代日本工芸を展示する二部構成で開催しました。

第一部では、掛川市出身の人間国宝 大角幸枝氏の鍛金作品をはじめ、陶芸、染織、漆芸など現代工芸品の逸品を展示し、今に続く伝統の技と美をご覧頂きました。第二部では、豊臣秀吉の命により造られたと言われる黄金の茶室(復元)を展示室に再現し、これにあわせ茶室とゆかりのある正親町天皇、秀吉、千利休を中心に書画、茶碗、茶杓などを展示しました。黄金の茶室は、その名のおり茶室から茶道具に至るまで金が用いられ、1585(天正14)年、秀吉はこの組み立て式の茶室を宮中に持ち込み、正親町天皇に茶を献じたと伝えられています。

絢爛豪華な黄金の茶室と、桃山・江戸時代の貴重な茶道具をご覧頂き、天下人 豊臣秀吉が時の天皇であった正親町天皇と対面し、一服の茶を楽しんだ様子に思いを馳せる展覧会となりました。

### 第1展示室

No	作品名	作者	制作年	員数
1	紬織着物「木精」	志村 ふくみ	1989年	1領
2	練上花影文陶管	松井 康成	1991年	1合
3	燿彩鉢・遙	三代 徳田 八十吉	1996年	1口
4	乾漆菊華鉢	増村 紀一郎	2004年	1口
5	瓢果蒔絵合子	室瀬 和美	2015年	1合
6	切嵌象嵌接合せ箱「夕風」	山本 晃	2013年	1合
7	羅馬聖光コンスタンティーノ	中村 信喬	2013年	1体
8	南鐐花器「海風」	大角 幸枝	1997年	1口

### 第2展示室

No	作品名	作者	制作年	員数
1	独楽香合		17世紀	1合
2	備前砧形花生		桃山時代 17世紀	1口
3	千利休消息 熱海入湯の文	千利休	桃山時代 16世紀	1幅
4	千利休茶杓 追筒		桃山時代 16世紀	1組
5	豊臣秀吉像		江戸時代 17世紀	1幅
6	古瀬戸茶入 銘 臨月	藤四郎	室町～桃山時代 15～16世紀	1口
7	黒楽菊押茶碗 長次郎焼		桃山時代 16世紀	1口
8	正親町天皇宸翰 日課詠草 ※	正親町天皇	桃山時代 16世紀	1幅
9	井戸茶碗 銘 常盤		李朝時代 16世紀	1口
10	黄金の茶室(復元)			
11	「豊國大明神」神号「秀頼九才」	豊臣秀頼	桃山時代	1幅
12	黄金茶杓		慶長六年(1601年)	1組
13	黄金肩衝茶入			1口

※重要美術品



第4回

引き込まれる空間 動き出すたまごたち  
 — 今堀邦子展 —

平成29年9月2日(土)～10月15日(日)

今堀邦子は、静岡県浜松市出身で現在は埼玉県日高市で活動を行う画家です。東京藝術大学油画科・同大学院油画科専攻では、小磯良平・田口安夫両氏に師事、現在各方面で日本のアートシーンを支える学友たちと共に過ごし、制作を行いました。

40代から50代にかけて、イタリアを中心にヨーロッパに長く滞在し、主に15世紀から18世紀にかけての壁画や油画の研究をし、そこで多視点・多焦点絵画に出会い、この技法で油画の大作やドローイングの作品などを描き続けています。

今堀の多視点・多焦点絵画には、見るものを圧倒し、鑑賞者が画面に引き込まれていくような空間性を感じます。大きな油彩は引きをとって離れた場所から見ることにより、より絵画の中のたまごたちが動きを増し、作品の面白さを最大限に味わうことができました。

第1展示室・廊下・ロビーでは、大小併せて19点を展示しました。ロビーには、《優しい関係'09 一家族の肖像》(3点組)や、廊下に《群れることの意味'16》を展示し、来館者が展示室に入る前から作品の世界に入り込めるような配置にしました。第1展示室では、主にドローイング作品を展示しました。

第2展示室では、油彩画・アクリル画の絵画作品を12点、ドローイングを1点展示しました。特に本展覧会のために新しく作成された《群れることの意味'17より—発生—》は、壁一面が4枚組の大きな絵画に埋め尽くされ、たまごが上昇してゆくような視覚効果を十分に楽しめる展示となりました。

また、併せて階段にも小さなドローイング3点を展示しました。

	作品名	制作年	素材	サイズ
1	One's position '12	2012年	油彩、キャンバス	1620×1620mm
2	大地の衣より —内なる青'06—	2006年	アクリル・鉛筆、紙	715×1120mm
3	The dolls '08	2008年	アクリル・鉛筆、紙	640×995mm
4	群れることの意味'09	2009年	アクリル・鉛筆、紙	728×515mm
5	群れることの意味'09	2009年	アクリル・鉛筆、紙	728×515mm
6	群れることの意味'09	2009年	アクリル・鉛筆、紙	728×515mm
7	群れることの意味'09	2009年	アクリル・鉛筆、紙	728×515mm
8	優しい関係'09 —家族の肖像—	2009年	アクリル、キャンバス	F80+P100+P120 (3点組)
9	One's position '11	2011年	アクリル、キャンバス	2606×1620mm
10	大地の衣'05	2005年	アクリル・鉛筆、紙	515×728mm
11	大地の衣'05	2005年	アクリル・鉛筆、紙	515×728mm
12	One's position '12	2012年	油彩、キャンバス	1940×2910mm
13	One's position '12	2012年	油彩、キャンバス	1620×2910mm
14	One's position '12より—群れることの意味—	2012年	アクリル、キャンバス	1620×1303mm (5点組)



	作品名	制作年	素材	サイズ
15	One's position '15	2015年	アクリル・鉛筆、紙	455×380mm
16	One's position '15	2015年	アクリル・鉛筆、紙	455×380mm
17	群れからの移動 '15	2015年	油彩、キャンバス	1940×1303mm
18	群れからの離脱 '15	2015年	油彩、キャンバス	1940×1303mm
19	One's position '14	2014年	油彩、キャンバス	1940×2606mm
20	One's position '16	2016年	油彩、キャンバス	1940×2606mm
21	群れからの離脱 '16	2016年	ミクストメディア、キャンバス	1620×2606mm
22	群れている自覚は有るか? '16	2016年	アクリル、紙	515×728mm
23	群れの中で個で居ること '16	2016年	アクリル、紙	515×728mm
24	行き着く先は同じか? '16	2016年	アクリル・鉛筆、紙	515×728mm
25	群れることの意味 '16	2016年	油彩、キャンバス	970×3880mm
26	群れることの意味 '17より -発生-のための習作 13	2017年	アクリル、紙	530×455mm
27	群れることの意味 '17より -発生-のための習作 14	2017年	アクリル、紙	530×455mm
28	群れることの意味 '17より -発生-	2017年	油彩、キャンバス	F130×2+F150×2 (4点組)
29	One's position '11	2011年	墨・アクリル、紙	515×728mm
30	One's position '14	2014年	アクリル・鉛筆、紙	242×333mm
31	One's position '14	2014年	アクリル・鉛筆、紙	380×455mm
32	One's position '14 - destination	2014年	アクリル・鉛筆、紙	333×242mm



第5回

かけがわ茶エンナーレ企画展  
大庭大介・竹廣泰介展

平成29年10月21日(土)～12月3日(日)

かけがわ茶エンナーレ事業の一環として、大庭大介と竹廣泰介の二人の新進気鋭の現代作家をむかえ、彼らの作品を紹介しました。

大庭大介は、偏光パールのアクリル絵具を用いて光学的な作品を創作、鑑賞者の見る角度によって色彩やイメージが変化する独特の世界を創り上げています。今回は「かけがわ茶エンナーレ」に寄せて新作を初公開しました。

竹廣泰介は、信楽焼を中心とする陶芸家であり、信楽特有の風合いを生かし、デザイン性の高い花器や壺を造り出しています。素朴でありながらその力強い作風は、日本の伝統美を今に伝え、また、花芸安達流 安達瞳子氏の花器の制作では、陶芸と花芸を融合した華麗な美の世界を創り出しています。

双方の作品をご覧頂くことで、あらたな芸術の未来と掛川の魅力を再発見頂く機会となりました。

第1展示室

No	作品名	作者
1	信楽窯変花入	竹廣泰介
2	信楽壺	竹廣泰介
3	信楽窯変壺	竹廣泰介
4	信楽燻焼壺	竹廣泰介
5	信楽緋色壺	竹廣泰介
6	信楽緋色花入	竹廣泰介
7	信楽燻焼掛花入	竹廣泰介
8	粉引掛花入	竹廣泰介

他 27 点

第2展示室

No	作品名	作者
1	X	大庭大介
2	M	大庭大介
3	WAVE	大庭大介
4	ONE	大庭大介
5	METEOR PAINTING	大庭大介

他 5 点



第6回

## 市民芸術祭優秀作品展と掛川ゆかりの美術展

平成29年12月7日(木)～12月24日(日)

第1展示室では、当館収蔵品より江戸時代の文人画家・村松以弘から、戦争で亡くなった日本画家・桑原喜八郎、掛川にアトリエを構え創作活動を行った佐々木信平、青木達弥など現代の画家に至るまで、掛川とゆかりのある画家の作品を展示しました。

第2展示室では、掛川市民芸術祭より、絵画、彫刻・手工芸、写真、書道の4部門の優秀作品39点と審査員の作品3点を展示しました。

また、併せてロビーにおいて、「花・動物・家族の顔」をテーマに公募したスケッチ画921点を展示しました。

### 第1展示室

No	作品名	作者	制作年	材質・技法
1	董法山水図	村松 以弘	1817(文化14)	葛本墨画・着彩
2	墨梅図	大庭 松風	江戸時代後期	紙本墨画
3	昆虫図	大久保 一丘	江戸時代後期	絹本着彩
4	百事如意図	小山 汪水	1858	紙本着彩
5	浅春	桑原 喜八郎	1942	紙本着彩
6	地縁	佐々木 信平	2007	油彩、キャンバス
7	事任八幡宮 日坂	佐々木 信平	2008	水彩、紙
8	東海道 日坂にて	佐々木 信平	2008	水彩、紙
9	横須賀街道 八百甚	佐々木 信平	2008	水彩、紙
10	掛川 桜木駅	佐々木 信平	2008	水彩、紙
11	掛川 大池橋	佐々木 信平	2008	水彩、紙
12	小夜の中山 久延寺	佐々木 信平	2008	水彩、紙
13	ドームのある風景	青木 達弥	1966	油彩、キャンバス
14	遺跡に想う 祭り	木村 鐵雄	2007	油彩、ミクストメディア
15	分水嶺 I	柳澤 紀子	1993	エッチング・部分雁皮紙、着彩

### 第2展示室

#### 絵画

No	部門	賞	作品名	氏名
1	一般	審査員	巡礼の町	中嶋 明
2		市長賞	秋日和	横山 敏和
3		教育長賞	想い	山本 節子
4		文化協会会長賞	虚無	宮本 夏
5		奨励賞	冬日の里 (大井川)	松下 一弘
6		奨励賞	月の砂漠	小関 照子
7		奨励賞	ほっとする場所	溝口 ふさよ
8		奨励賞	千畳敷カール	渋谷 まちよ



9	高校	市長賞	滝	松下 稜
10		教育長賞	母と子へ桜の祝福	阿部 真夕
11		文化協会長賞	フェアリー	川嶋 瑠菜
12		奨励賞	色々生きている まだ、大丈夫	加藤 裕香
13		奨励賞	輝-手にこめられたもの-	老川 哲史
14		奨励賞	シーリングスタンプ	原 柚月
15		奨励賞	水	鈴木 達仁
16		奨励賞	静寂	岩重 日向
17		奨励賞	ぬくもり	戸塚 のの
18	奨励賞	つめクリップ	山田 沙椰	

彫刻・手工芸

No	部門	賞	作品名	氏名
19	一般	市長賞	祢里	宇田 敬一
20		教育長賞	掛川市小笠山のイマメの作品	菊池 正成
21		文化協会長賞	昇り龍 (流木アート)	山田 文夫
22		奨励賞	星月夜	黒田 美穂

書道

No	部門	賞	作品名	氏名
23	一般	審査員	王安石詩	田代 香桃
24		市長賞	王維詩	榛葉 恵翠
25		教育長賞	王嘉謨詩	寺澤 輝子
26		文化協会長賞	楊榮詩	伊東 丹礒
27		奨励賞	陸游詩	尾崎 弘子
28		奨励賞	王洪詩	藤岡 典子
29		奨励賞	身心一如	金原 秀典
30		高校	市長賞	北風吹白雲
31	教育長賞		創作	大嶋 佑
32	文化協会長賞		臨書 王羲之 蘭亭序	山田 珠希
33	奨励賞		創作	伊藤 冴

写真

No	部門	賞	作品名	氏名
34	一般	審査員	堤防の好日	薩川 高宏
35		市長賞	潮騒	萩田 昇
36		教育長賞	夕日を浴びて	石原 俊夫
37		文化協会長賞	ダッシュ	後藤 正徳
38		奨励賞	大空に感動を描く	松浦 加都世
39			初日の出	松本 隆夫
40	高校	市長賞	さー行くぞ!!	榛葉 優輝
41		教育長賞	小豆	赤堀 勇馬
42		文化協会長賞	水しぶき	上村 たるほ



第7回

# 名品と出会う -企業コレクションによる日本近代洋画展-

平成29年12月29日(金)～平成30年2月25日(日)

日本の近代化とともにめざましく発展した洋画は、海外の芸術運動を同時代的に吸収しながら成熟します。昭和戦前期には、1930年協会や独立美術協会が結成され、多くの個性的な画家たちが活躍する舞台となりました。

本展では公益社団法人糖業協会が所蔵する珠玉のコレクションを通して、独自の表現を切り開いた洋画家たち42人61作品を紹介しました。西洋文化の新たな潮流が押し寄せる中、日本の洋画家たちが見出した美意識と、それぞれの画家が求めた独自の表現を改めて見つめ直す機会となりました。

No	作家	生没年	作品名	材質	寸法	制作年
1	青山義雄	1894-1996	港	油彩、画布	41.0 × 53.2	1939年(昭和14)頃
2	麻生三郎	1913-2000	花	油彩、画布	45.2 × 38.0	1950年(昭和25)頃
3	有島生馬	1882-1974	春雪	油彩、板	37.0 × 45.0	1940年(昭和15)
4	石井柏亭	1882-1958	合流	油彩、画布	45.9 × 53.2	1941年(昭和16)頃
5	伊藤 廉	1898-1983	志賀高原	油彩、画布	53.0 × 45.5	1940年(昭和15)頃
6	伊藤 廉		妙義山	油彩、画布	46.0 × 80.0	1939年(昭和14)
7	井上長三郎	1906-1995	紫陽花	油彩、画布	45.7 × 45.7	1939年(昭和14)頃
8	井上長三郎		冬の宮殿(レニングラード)	油彩、画布	33.3 × 53.0	1956年(昭和31)頃
9	井上長三郎		少女	油彩、画布	65.0 × 53.0	1966年(昭和41)頃
10	井上長三郎		馬(サーカス)	油彩、画布	33.3 × 45.5	1967年(昭和42)頃
11	井上長三郎		馬(ドンキホーテ)	油彩、画布	45.5 × 33.5	1977年(昭和52)
12	猪熊弦一郎	1902-1993	婦人の像	油彩、画布	55.0 × 46.0	1941年(昭和16)頃
13	梅原龍三郎	1888-1986	紫禁城の黄昏	油彩、画布	60.6 × 80.3	1939年(昭和14)
14	梅原龍三郎		ベニス風景	水彩、紙	21.5 × 30.0	1952年(昭和27)
15	梅原龍三郎		桜島遠景	水墨、紙	19.5 × 13.2	1956年(昭和31)
16	刑部 人	1906-1978	溪流新緑(塩原)	油彩、画布	45.4 × 53.0	1971年(昭和46)頃
17	笠井誠一	1932-	独楽と玩具	油彩、画布	39.7 × 23.0	1977年(昭和52)
18	金山平三	1883-1964	雲の影(十和田湖)	油彩、画布	45.5 × 65.2	1961年(昭和36)頃
19	川島理一郎	1886-1971	洋蘭	油彩、画布	60.0 × 50.0	1941年(昭和16)頃
20	熊谷守一	1880-1977	玩具	油彩、板	32.0 × 41.5	1957年(昭和32)
21	小磯良平	1903-1988	朝	油彩、画布	72.7 × 50.0	1939年(昭和14)
22	小糸源太郎	1887-1978	花	油彩、紙	24.3 × 33.4	1962年(昭和37)頃
23	児島善三郎	1893-1962	虞美人草	油彩、板	33.0 × 23.7	1939年(昭和14)
24	児島善三郎		風景	油彩、画布	31.0 × 40.0	1950年(昭和25)
25	小林和作	1888-1974	海	油彩、画布	33.5 × 61.0	1939年(昭和14)
26	斎藤与里	1885-1959	阿蘇風景	油彩、画布	38.0 × 45.5	1941年(昭和16)頃
27	里見勝蔵	1895-1981	椿	油彩、画布	65.3 × 55.0	1935年(昭和10)頃



No	作家	生没年	作品名	材質	寸法	制作年
28	清水登之	1887-1945	廬山（一文字山）	油彩、画布	45.3 × 53.2	1939年（昭和14）頃
29	鈴木保徳	1891-1974	翼と花（夾竹桃）	油彩、画布	50.0 × 72.8	1944年（昭和19）
30	須田国太郎	1891-1961	風景（樹間）	油彩、画布	31.8 × 40.9	1947年（昭和22）頃
31	曾宮一念	1893-1994	冬日	油彩、画布	45.5 × 60.6	1939年（昭和14）
32	高島達四郎	1895-1976	太海	油彩、画布	27.0 × 34.8	1939年（昭和14）
33	高島達四郎		牡丹	油彩、画布	61.0 × 55.0	1940年（昭和15）
34	高島達四郎		秋果	油彩、画布	50.0 × 60.5	1942年（昭和17）
35	高島達四郎		浅間高原	油彩、板	50.0 × 60.6	1963年（昭和38）頃
36	鳥海青児	1902-1972	西洋菊	油彩、画布	33.4 × 24.4	1963年（昭和38）
37	津田正周	1907-1952	スムール風景	油彩、画布	44.4 × 51.8	1939年（昭和14）
38	東郷青児	1897-1978	羊飼	油彩、画布	53.0 × 40.9	1935年（昭和10）
39	中川一政	1893-1991	風景（伊豆の漁港）	油彩、画布	32.0 × 41.0	1956年（昭和31）頃
40	中川紀元	1892-1972	伊那谷味爽（仙丈ヶ岳）	油彩、画布	50.0 × 60.6	1967年（昭和42）
41	中沢弘光	1874-1964	舞妓	油彩、画布	53.6 × 45.5	1939年（昭和14）
42	中沢弘光		紀州潮岬	油彩、画布	73.0 × 91.3	1940年（昭和15）
43	中山 巍	1893-1978	花	油彩、画布	53.5 × 41.0	1939年（昭和14）
44	野口弥太郎	1899-1976	硫黄山	油彩、画布	45.5 × 53.0	1939年（昭和14）
45	野口弥太郎		上海	油彩、画布	80.3 × 65.0	1941年（昭和16）
46	野口弥太郎		風景（ロンドン）	油彩、画布	33.3 × 41.3	1963年（昭和38）
47	林 武	1896-1975	ダリア	油彩、画布	65.4 × 53.5	1940年（昭和15）頃
48	福沢一郎	1898-1992	花とてんとう虫	アクリル、画布	41.0 × 32.0	1974年（昭和49）頃
49	藤島武二	1867-1943	海	油彩、画布	37.8 × 49.8	1932年（昭和7）頃
50	牧野虎雄	1890-1946	庭の柿	油彩、画布	53.0 × 45.5	1939年（昭和14）頃
51	牧野虎雄		梅雨入り（柿青葉）	油彩、画布	46.0 × 53.0	1941年（昭和16）頃
52	松田文雄	1908-1971	靴直しの男	油彩、画布	91.0 × 72.7	制作年不明
53	松田文雄		小春日	油彩、画布	116.7 × 91.0	1946年（昭和21）
54	松田文雄		海（波）	油彩、画布	130.3 × 162.1	1959年（昭和34）
55	満谷国四郎	1874-1936	鞆津風景	油彩、画布	45.5 × 53.0	1925年（大正14）頃
56	森 芳雄	1908-1997	風景（犬吠埼より）	油彩、画布	37.0 × 44.8	1957年（昭和32）
57	森 芳雄		静物（果物と水差し）	油彩、画布	53.0 × 65.0	1963年（昭和38）
58	森 芳雄		春の窓	油彩、画布	50.0 × 60.6	1965年（昭和40）
59	安井曾太郎	1888-1955	女と犬	油彩、画布	81.5 × 54.5	1940年（昭和15）
60	山口 薫	1907-1968	万華蓮沼	油彩、画布	52.5 × 45.5	1961年（昭和36）
61	和田英作	1874-1959	静物（果物）	油彩、画布	40.9 × 53.0	1920年（大正9）





第8回

木下コレクション

工芸品をたのしむ-小さきものみな美し

平成30年3月3日(土)～3月31日(土)

本展覧会では、当館収蔵品の木下コレクションの主軸ともなっている細密工芸品を中心に紹介しました。

細密工芸品とは、煙草入れや煙草盆・きせるなどの喫煙具をはじめとして、男性の洒落小物である印籠や華やかな女性の櫛かんざしなど、近世から近代にかけて愛でられた装身具を示します。これらは、生活の実用品であると同時に、自らを美しく装うためのアクセサリでもあり、そこには、より美しくより繊細な、そして、唯一無二の洒脱なデザインが求められました。また、技法的にも金銀を彩した蒔絵や繊細な彫金細工が施され、宝飾品さながらの美しさを持ち合わせています。

今回は、「小さきものみな美し」の精神のもと、日本人の美意識をもって作られた様々な作品をご覧頂くと同時に、ウニコール※根付約200点(樽林美喜男氏所蔵)も初公開し、希少性の高いウニコール作品が一堂に集結するまたとない機会にもなりました。

※ウニコールとは北極海に生息する海獣イッカクの牙で、経年変化による餡色の風合いが美しく、江戸時代より様々な工芸品細工に用いられています。

No	作品名	
1	浅葱地葡萄唐草栗鼠文更紗脇差したばこ入れ	二の丸美術館蔵
2	菊文尽くし螺鈿蒔絵印籠	二の丸美術館蔵
3	金唐革一つ提げたばこ入れ	二の丸美術館蔵
4	帯留(茄子・蓮花)	二の丸美術館蔵
5	芙蓉螺鈿蒔絵櫛	二の丸美術館蔵
6	白地唐花文金更紗一つ提げたばこ入れ	個人蔵
7	虎根付(銘 白龍)	個人蔵
8	栗穂図鏡蓋根付(銘 東明)	個人蔵
9	親子猿根付(銘 一光斎)	個人蔵
10	金唐革腰差したばこ入れ	個人蔵

他 150 点



## 二の丸美術館 教育普及活動

### 1 写生大会（友の会共催）

事業名	写生大会「掛川城公園を描こう！」
日時	5月27日（土）午前9時～午後3時
会場	掛川城公園
講師	佐々木信平氏
対象	どなたでも
参加者	54人
内容	掛川城公園内で現在活躍中の作家からアドバイスを受けながら写生を行った。
展示	6月3日（土）～6月11日（日）美術館ロビーに展示
表彰	市長賞・教育長賞などを選考。全員に参加賞。 表彰式／6月4日（日）午前10時から 受賞者／11名（小学生1、中学生4、一般6）

### 2 スケッチ講座（友の会共催）

事業名	スケッチ講座
日時	10月29日（日）午後1時30分～午後4時30分
会場	竹の丸 ギャラリー
講師	山城道也氏
対象	どなたでも
参加者	17人
内容	鉛筆、絵の具などで静物スケッチを行い、描き方について講師から指導を受けた。

### 3 スケッチ作品募集（友の会共催）

テーマ	花・動物・家族の顔
募集	9月1日（金）～9月30日（土） 応募者 小学生706人 中学生209人 一般6人 合計921人
表彰	小・中学生・一般の部応募作品・・・市長賞、教育長賞を選考。全員に参加賞。 表彰式 12月10日（日）午前10時から 受賞者 26人（小学生18、中学生5、一般3）
展示	12月7日（木）～12月24日（日） 全応募作品を「掛川市民芸術祭優秀作品展・掛川ゆかりの美術展」の期間中美術館内に展示

### 4 講座

事業名	掛川三城の魅力を探る - 掛川城・高天神城・横須賀城 -
日時	10月14日（土）午後1時30分～午後3時
会場	掛川市立中央図書館 会議室B
講師	加藤理文氏
参加者	76名（うちボランティア12名）

事業名	掛川市二の丸美術館収蔵品関連講座（講演会）掛川ゆかりの美術家たち
日時	12月9日（土）午後1時30分～午後3時
会場	大日本報徳社 仰徳記念館
講師	前豊橋市美術博物館館長・美術評論家 金原宏行氏
参加者	38人



## 5 小中学校図工美術主任研修会

日 時	2月1日（木） 午後3時～午後4時30分
内 容	掛川市ステンドグラス美術館の魅力
講 師	志田政人氏（掛川市ステンドグラス美術館顧問）
会 場	掛川市中央図書館 会議室
参加者	28人

## 6 展覧会関連事業

題 名	黄金の茶室と現代日本美術の粹展 講演「MOA美術館のコレクションと黄金の茶室」
日 時	8月5日（土） 午後1時30分～午後2時30分
会 場	掛川市立中央図書館 会議室
講 師	MOA美術館学芸部次長 矢代 勝也 氏
参加者	59人

題 名	黄金の茶室と現代日本美術の粹展 日比野館長によるミニレクチャー
日 時	① 7月29日（土） ② 8月5日（土）
会 場	美術館展示室
講 師	二の丸美術館館長 日比野秀男氏
参加者	① 18人 ② 19人

題 名	引き込まれる空間動き出すたまごたち－今堀邦子展－ 鼎談 今堀邦子（画家）×柴田敏雄（写真家）×柳澤紀子（版画家）
日 時	9月9日（土） 午後1時30分～午後3時
会 場	美術館ロビー
講 師	今堀邦子氏（画家）、柴田敏雄氏（写真家）、柳澤紀子氏（版画家）
参加者	65人

題 名	かけがわ茶エンナーレアートセレクション 大庭大介・竹廣泰介展 花芸 安達流主宰 二代安達瞳子氏によるワークショップ 和の美－竹廣泰介氏の花器に花を活けよう
日 時	10月21日（土） 午前10時～午後12時
会 場	美術館ロビー
講 師	安達流主宰 二代安達瞳子氏
参加者	14人

題 名	かけがわ茶エンナーレアートセレクション 大庭大介・竹廣泰介展 竹廣泰介氏と陶芸を語る
日 時	11月5日（日） 午前11時～ 午後2時～
会 場	美術館第二展示室
講 師	竹廣泰介氏
参加者	34人



題名	かけがわ茶エンナーレアートセレクション 大庭大介・竹廣泰介展 大庭大介氏の絵画考 ～関係とプロセス
日時	11月12日（日） 午後2時～
会場	美術館第一展示室
講師	大庭大介氏
参加者	46人

題名	名品と出会う－企業コレクションによる日本近代洋画展－ ギャラリートーク
日時	1月20日（土） 午後1時～午後2時
会場	美術館展示室
講師	担当学芸員
参加者	40人

題名	名品と出会う－企業コレクションによる日本近代洋画展－ アートカードで、お気に入りの名品を探そう
日時	1月27日（土） 午前10時～午後0時
会場	美術館ロビー
講師	担当学芸員
参加者	8人

題名	木下コレクション－工芸品をたのしむ－ ギャラリートーク 見て触れて楽しい根付ワールド！ユニコール根付の魅力語る
日時	3月11日（日） 午後1時30分～午後2時30分
会場	美術館展示室
講師	樽林美喜男氏（ユニコール根付コレクター）
参加者	69人



## 二の丸美術館・ステンドグラス美術館 講座等事業一覧

事業名	ボランティア視察研修
日 時	6月5日（月）
行き先	MOA美術館・三嶋大社宝物館
参加者	28人

事業名	草間先生のステンドグラスちょこっと技法体験
日 時	6月18日（日）午前11時～ 午後2時～
会 場	ステンドグラス美術館
講 師	草間幸子氏
参加者	43人

事業名	ステンドグラス体験講座
日 時	7月29日（土）、30日（日）、31日（月）
会 場	生涯学習センター 工作室
講 師	志田政人氏・草間幸子氏
参加者	24人

事業名	夏休み親子感想文コンクール
日 時	7月15日（土）～8月27日（日）
参加者	78人

事業名	夏休み親子鑑賞割引
日 時	7月15日（土）～8月27日（日）
参加者	74人

事業名	ミュージアムコンサート「ステンドグラスとヴァイオリンの調べ♪」
日 時	7月16日（日） 午後7時～午後7時45分
会 場	ステンドグラス美術館
出演者	日比恵三氏（ヴァイオリン）・野田広美氏（ソプラノ）
参加者	41人

事業名	ステンドグラス写真パネル展
日 時	7月20日（木）～8月16日（水）
会 場	掛川花鳥園

事業名	草間先生のステンドグラスちょこっと技法体験
日 時	9月17日（日）午前11時～ 午後2時～
会 場	ステンドグラス美術館
講 師	草間幸子氏
参加者	16人



事業名	ぬりえ大会
日時	10月28日（土）～11月12日（日）
参加者	82人

事業名	ミュージアムコンサート「ステンドグラスとフルート&ピアノの調べ」
日時	12月10日（日） 午後7時～午後7時45分
会場	ステンドグラス美術館
出演者	前田梨紗氏（フルート）・白月 柚氏（ピアノ）
参加者	38人

事業名	ナイトミュージアム ～至宝のひかりとステンドグラス～
日時	12月2日（土）、3日（日）、9日（土）、16日（土）、17日（日）、23日（土）、24日（日） 午後5時～午後8時
会場	ステンドグラス美術館
入場者	497人

事業名	ボランティア視察研修
日時	1月22日（月）
行き先	上原美術館
参加者	18人

事業名	ステンドグラス体験講座
日時	2月10日（土）、11日（日）、12日（月）
会場	生涯学習センター 工作室
講師	志田政人氏・草間幸子氏
参加者	20人

事業名	ステンドグラス写真パネル展
日時	2月20日（火）～3月20日（火）
会場	掛川市立東中学校

事業名	ステンドグラス写真パネル展
日時	3月7日（水）～30日（金）
会場	大須賀中央公民館

事業名	はじめての方のステンドグラス鑑賞講座「ステンドグラスを見る眼-中世の聖堂からルオーまで-」
日時	3月18日（日） 午後2時～午後3時30分
会場	大日本報徳社 仰徳記念館
講師	清泉女子大学文学部文化史学科教授 高野禎子氏
参加者	53人



事業名	SPRINGミュージアムコンサート「ステンドグラスと奏でる♪ピアノ&マリンバの夕べ」
日時	3月25日（日） 午後7時～午後7時45分
会場	ステンドグラス美術館
出演者	藤田麻貴子氏、(ピアノ)・斎藤珠希氏 (マリンバ)
参加者	24人

事業名	SPRINGナイトミュージアム ～ステンドグラスと掛川桜～
日時	3月9日（金）、10日（土）、17日（土）、24日（土）、31日（土） 午後5時30分～午後8時
会場	ステンドグラス美術館
入場者	86人

事業名	週末♪ミュージアムminiコンサート
日時	4月～3月までの日曜日（月1回） 午後2時～午後2時30分
会場	ステンドグラス美術館
出演者	掛川市民オーケストラ
参加者	356人

事業名	出前講座
見学者	412人



# 調査研究活動

## 1 館蔵資料保存・整理の状況

### (1) 資料の収集

平成 29 年度末までに収集した資料は、3,256 点にのぼる。

二の丸美術館では、美術資料とともに歴史資料の収集も行っており、所蔵資料の範囲は多岐にわたる。

資料の一層の充実をめざして、今後とも継続・計画的な資料収集を行う。

### (2) 資料の範囲・方針

収集に当たっての基本的方針は次のとおりである。

- 掛川市出身作家および掛川市ゆかりの作品
- たばこ及びたばこ道具、細密工芸品に関する資料、作品
- 掛川城・高天神城・横須賀城に関する資料
- 掛川宿、日坂宿に関する資料
- その他

資料の収集方法は、寄贈の受け入れ、購入、寄託の受け入れなどである。

### (3) 資料の管理

展示や研究などの美術館活動の基本となる資料は、市民の財産として永く後世に伝えなければならないが、一方では常に活用できるような状態にしておくことも必要である。

### (4) 資料の保存

年間を通じて温湿度を一定に保った収蔵庫を 2ヶ所設置し、一方では絵画を、もう一方では工芸品を収納し、それぞれの材質に適した空調を行っている。

光や温湿度の変化に注意を要する資料は、収蔵庫から出す期間をできるだけ短くし、外部環境からの影響をできるだけ小さくするようにしている。また、害虫やカビの発生を防止するため、毎年収蔵庫の燻蒸を行っている。

### (5) 資料の修復

収蔵資料で汚損や劣化が激しいものは、専門家による修復を行っている。

### (6) 資料の分布

収蔵品の中核となる木下コレクションは、総数 2,300 点余りと膨大な量で、内容もたばこ道具、刀装具、櫛、筭、印籠など多岐にわたり、現在も整理を行っている。

コレクションのうち、約 800 点がたばこ入れであるが、たばこ入れは染色・漆芸・金工・皮革など様々な技法を用いているので新たな分類方法が必要となった。そのため独自の分類方法を試みている。





## 新収蔵品資料

### H28 年度

NO.	資料名	数	制作年	形態等	寸法 (cm)	備考
1	《山のくらし-障子》 本田 健	1	1990 年	木製パネルに紙、チャコールペンシル	109.0 × 91.0	購入
2	《山のくらし-米 (5)》 本田 健	1	2002 年	キャンパス、油彩	60.6 × 72.7	購入

### H29 年度

NO.	資料名	数	制作年	形態等	寸法 (cm)	備考
1	根付《ペルシャ猫》阿部賢次	1	1977 年	象牙	高 4.0	購入
2	根付《団栗》三代 宮澤良舟	1	1986 年	象牙	高 2.4	購入
3	根付《恐竜誕生》中村和明	1	2011 年	黄楊	高 4.5	購入
4	根付《娘道成寺》庄司明幹	1	2015 年	象牙	高 6.3	購入
5	根付《パンダの親子》工藤道齋	1	2017 年	鹿角	高 5.0	購入
6	根付《栗》中畑泰成	1	2017 年	黄楊	高 3.0	寄贈

## 資料貸出

NO.	資料名	数	貸出期間	貸出先	展覧会名等
1	金唐革提げたばこ入れ	1	8/2(水) ～10/24(火)	平野美術館	「街道を旅する人々 -北斎・広重を中心に-」 8/19(土)～10/15(日)
2	千筋黄鹿革提げたばこ入れ	1			
3	金唐革一つ提げたばこ入れ	1			
4	金唐革一つ提げたばこ入れ	1			
5	御殿形折入角紋散らし彫りきせる	1			
6	御殿形牡丹に蝶彫りきせる	1			
7	如信形桜に楓散らし彫りきせる	1			
8	変り形竹に千成り瓢箪彫りきせる	1			
9	秋草鶉図四所物	1			
10	柿文蒔絵象嵌櫛	1			
11	吉祥文様尽くし朱漆蒔絵櫛	1			
12	蝶文様芝山細工象牙櫛	1			
13	仕掛けきせる(小刀入り)	1			
14	仕掛けきせる(尺付き)	1			
15	葛飾北斎 《東海道五十三次之内 掛川》	1			
16	葛飾北斎 《東海道五十三次 島田》	1			
17	葛飾北斎《東海道 島田》	1			
18	遠州凧	6	12/28(木)～ 平成30年1/16(火)	掛川城公園管理 事務所	掛川城御殿、二の丸茶室にて 正月飾りとして展示。 12/28(木)～ 平成30年1/15(月)
19	全国のミニ凧シート	9			
20	村松以弘《白糸瀑図》	1	2/20(火) ～5/25(金)	府中市 美術館	「リアル 最大の奇抜」 3/10(土)～5/6(日)



## 印刷物作成状況

名 称	規 格	数 量
名画は語る 和と洋の近・現代絵画展	チラシ A 4	10,000
	ポスター B 2	300
MOA 美術館所蔵品特別展示 黄金の茶室と現代日本美術の粋	チラシ A 4	10,000
	ポスター B 2	400
引き込まれる空間 動き出すたまごたち - 今堀邦子展 -	チラシ A 4	10,000
	ポスター B 2	300
	図録 A 4	200
大庭大介・竹廣泰介展	チラシ A 4	8,000
	ポスター B 2	300
市民芸術祭優秀作品展 掛川ゆかりの美術展	チラシ A 4	5,000
	ポスター A 2	150
名画と出会う - 企業コレクションによる日本近代洋画展 -	チラシ A 4	10,000
	ポスター B 2	300
	図録 A 4	300
木下コレクション 工芸品をたのしむ - 小さきものみな美し -	チラシ A 4	10,000
	ポスター B 2	200
年間スケジュール	A 4 三つ折り	13,000



# 管理運営

## 1 入館者数統計

【年度別】

### 掛川市二の丸美術館

区分 年度	開館 日数	有 料 入 館 者 数				無料入館者数		計	1日 平均
		美術館のみ		美術館・掛川城セット		大 人	小 人		
		大 人	小 人	大 人	小 人				
10～14	1,371	31,640	1,125	115,528	8,266	29,429	7,580	193,568	141
15	273	4,553	110	21,520	1,405	5,953	1,512	35,053	128
16	268	3,967	462	20,926	1,684	9,496	2,921	39,456	147
17	280	4,611	79	35,706	1,553	17,888	4,237	64,074	229
18	304	5,864	145	81,054	2,739	19,092	3,762	112,656	371
19	270	3,428	101	20,368	1,208	13,502	3,093	41,700	154
20	269	5,798	104	23,275	1,572	5,140	1,181	37,070	138
21	267	4,597	107	20,743	1,176	5,437	1,332	33,392	125
22	268	3,105	82	17,596	617	5,294	2,313	29,007	108
23	268	2,703	82	19,084	1,526	4,163	1,183	28,741	107
24	276	2,538	52	17,160	1,324	4,740	1,062	26,876	97
25	273	2,711	68	13,720	727	4,261	1,639	23,126	85
26	272	2,602	35	7,408	467	4,068	1,277	15,857	58
27	272	4,112		3,871		4,068	1,277	23,510	86
28	289	5,431		8,048		4,766	3,467	21,712	75
29	285	8,906		9,616		5,445	4,282	28,249	99

### 掛川市ステンドグラス美術館

区分 年度	開館 日数	有 料 入 館 者 数				無料入館者数		計	1日 平均
		美術館のみ		美術館・掛川城セット		大 人	小 人		
		大 人	小 人	大 人	小 人				
27	256	28,662		12,443		4,858	6,247	52,210	203
28	323	15,809		9,467		3,153	5,387	33,816	104
29	317	10,809		9,524		4,155	5,517	30,005	95



【平成 29 年度月別】

掛川市二の丸美術館

月	開館 日数	有料入館者数							無料入館者数		計	1日 平均
		美術館	美・城セット		美・スセット		美・城・スセット		大人	小人		
		大人	一般	団体	一般	団体	一般	団体				
4月	26	627	391	42	70	29	364	102	197	310	2,132	82
5月	23	747	558	105	89	19	343	88	202	312	2,463	107
6月	26	373	233	24	42	43	170	92	492	144	1,613	62
7月	16	851	251	52	86	113	167	55	261	421	2,257	141
8月	26	1,896	755	113	193	64	351	127	873	869	5,241	202
9月	25	430	355	50	47	80	284	71	283	450	2,050	82
10月	22	411	218	105	45	4	165	41	292	217	1,498	68
11月	26	1,672	290	77	27	4	190	50	1,118	657	4,085	157
12月	22	137	48	10	16	3	60	10	1,179	218	1,681	76
1月	26	526	248	41	50	18	213	52	156	194	1,498	58
2月	22	414	197	32	47	15	175	63	164	183	1,290	59
3月	25	822	432	104	82	36	331	99	228	307	2,441	98
計	285	8906	3,976	755	794	428	2,813	850	5,445	4,282	28,249	99

掛川市ステンドグラス美術館

月	開館 日数	有料入館者数							無料入館者数		計	1日 平均
		美術館	美・城セット		美・スセット		美・城・スセット		大人	小人		
		大人	一般	団体	一般	団体	一般	団体				
4月	26	1,026	315	73	70	29	358	98	156	312	2,437	94
5月	28	1,235	483	96	87	19	343	88	199	456	3,006	107
6月	26	837	182	95	40	43	168	92	749	389	2,595	100
7月	26	749	262	87	84	113	167	55	181	577	2,275	88
8月	29	1,075	420	117	184	64	351	127	688	907	3,933	136
9月	26	798	300	111	47	80	284	71	175	586	2,452	94
10月	26	813	217	116	45	4	165	41	99	230	1,730	67
11月	26	1,023	202	67	23	4	190	50	1,272	736	3,567	137
12月	27	876	258	100	16	3	72	10	216	409	1,960	73
1月	26	566	199	145	50	18	213	52	88	213	1,544	59
2月	24	647	198	93	47	15	175	63	92	221	1,551	65
3月	27	1,164	381	159	74	36	321	99	240	481	2,955	109
計	317	10,809	3,417	1,259	767	428	2,807	846	4,155	5,517	30,005	95



## 【平成 29 年度展覧会別】

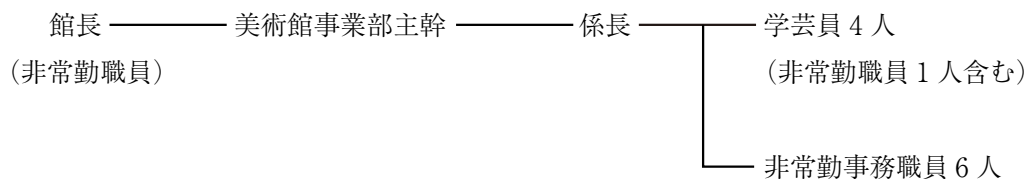
### 掛川市二の丸美術館

展覧会名	開館 日数	有料入館者数							無料入館者数		計	1日 平均
		美術館	美・城セット		美・スセット		美・城・スセット		大人	小人		
		大人	一般	団体	一般	団体	一般	団体				
蒔絵と彫金	33	894	773	86	132	42	620	162	313	559	3,581	108
名画は語る	44	887	444	91	75	81	284	136	639	256	2,893	65
黄金の茶室	40	2,713	971	159	273	145	491	166	1,073	1,241	7,232	180
今堀邦子展	38	591	508	79	74	80	413	108	375	529	2,757	72
大庭・竹廣展	38	1,955	379	161	50	9	259	55	1,360	802	5,030	132
市民芸術祭	16	0	0	0	0	0	0	0	1,124	165	1,289	80
名品と出会う	51	1,044	469	75	108	35	415	124	333	423	3,026	59
工芸品を楽しむ	25	822	432	104	82	36	331	99	228	307	2,441	97
計	285	8,906	3,976	755	794	428	2,813	850	5,445	4,282	28,249	99



## 2 組織・決算

### (1) 機構 (平成29年4月1日現在)



### (2) 美術館協議会委員 任期 2 年 平成 29 年 4 月 1 日 ~ 平成 31 年 3 月 31 日

氏 名	職 業 等
堀澤 光栄	前姫路市書写の里・美術工芸館館長
眞家 恵子	資生堂アートハウス館長
石田 伸吾	(株)静岡新聞社・静岡放送(株)浜松総局長
安村なおみ	掛川市社会教育委員
山田 英子	掛川市立大淵小学校校長
西川しげこ	静岡県書道連盟掛川菊川御前崎支部長
永田 稔男	掛川市文化協会副会長兼大須賀支部長
石津たつ子	掛川の現代美術研究会役員



(3) 平成29年度決算

●市決算

収入 (単位：千円)

区 分	金 額
美術館費雑入	828
計	828

支出 (単位：千円)

区 分	金 額
美術館協議会運営費	28
美術館運営費	59,142
二の丸美術館管理費	2,895
計	62,065

●二の丸美術館決算

収入 (単位：千円)

区 分	金 額
指定管理料	59,142
入館料	2,415
物販手数料収入	124
講座等開催収入	65
特定費用取崩収入	2,159
計	63,905

支出 (単位：千円)

区 分	金 額
1 給与費	31,304
2 管理運営費	21,908
3 美術館活動費	10,693
(1) 企画展( 展覧会 )	(10,548)
(2) 教育普及費( 講座 )	(145)
計	63,905

●ステンドグラス美術館決算

収入 (単位：千円)

区 分	金 額
指定管理料	23,543
入館料	8,443
物販手数料収入	56
講座等開催収入	143
計	32,185

支出 (単位：千円)

区 分	金 額
1 給与費	23,847
2 管理運営費	7,920
3 講座開催費	418
計	32,185

3 平成 29 年度 掛川市二の丸美術館及び掛川市ステンドグラス美術館協議会

【第 1 回】 2 月 23 日 (金) 掛川市役所 4 階会議室 1-C

平成 29 年度の事業実施状況について



## 4 掛川市二の丸美術館友の会

### 事業

月	日	曜	事業名	事業内容
5	2	火	第1回 役員会	・平成29年度事業計画・予算・研修視察について
6	23	金	総会（研修旅行車中にて）	・平成28年度事業実績、決算報告 ・平成29年度事業計画、予算について
			第1回 研修視察	・ポーラ美術館、星の王子さまミュージアム（箱根） （参加者 会員37人 事務局2人）
8	24	木	第2回 役員会	・研修視察について・友の会の協力について
10	27	金	第2回 研修視察	・豊橋市美術博物館、愛知県美術館 （参加者 会員33人 事務局2人）
1	19	金	第3回 研修視察	・静岡市美術館 （参加者 会員27人 事務局1人）
1	24	水	第3回 役員会	・ミュージアムサポーター発足について
4	11	水	第4回 役員会	・ミュージアムサポーター発足について ・研修視察について
5	23	水	第4回 研修視察	・佐川美術館（滋賀県） （参加者 会員34人 事務局2人）

### 美術館共催事業

5	27	土	写生大会	テーマ 「掛川城公園を描いてみよう」 講師 佐々木信平氏 会場 掛川城公園 参加者 54人 役員 8人 展示 6月3日～6月11日
9	1	金	スケッチ作品募集	テーマ 「花・動物・家族の顔」 募集 9月1日～9月30日 展示 12月7日～12月24日 応募者 921人
9	30	土		
10	29	日	スケッチ講座	講師 山城道也氏 会場 竹の丸 参加者 17人

### 会員

年度	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
人数	107	82	94	88	79	97	84	78	101	124	108	97	87	83	74	64	52	56



# 掛川市二の丸美術館 所蔵品解説

五倫口解 一冊

縦 二七・〇cm 横 一九・五cm

十一丁

近代（明治三年・一八七〇）



（巻頭）

## 【解説】

この版本は本書末尾に「明治庚午八月 柴山藩知事」とあるとおり、明治三年（一八七〇）八月、柴山藩知事により版行されたものである。これと同じものが「五倫口解」（成田山霊光殿所蔵文書）として『芝

山町史 資料集4 近現代編』（芝山町町史編さん委員会編、平成十三年十二月五日）に収録されており文章の内容も同じであることから同時に版行されたものであろう。

五倫口解は中国、朱子学の基本の教えである『白鹿洞書院揭示』を掛川藩校元教授の松崎慊堂がわかりやすく解説したものである。五倫とは、父子有親、君臣有義、夫婦有別、長幼有序、朋友有信、これは人が大事にするべき五つの道で、これを守ることでにより社会の平穏が保たれるとする。

『五倫口解』の成立については、『舊松尾藩学制沿革概略』（掛川市二の丸美術館蔵）に文化末年に太田資始が松崎慊堂に命じて作らせたとある。『舊松尾藩学制沿革概略』には次のとおり書かれている。

文化中攝津守資順備後守資言道藩十三末世之孫 孰レノ代ヲ詳カニセス慶安公移ト六諭衍義諺解トヲ版ニ刻ミ封内ニ頒布シ先ツ民ヲ當シ而後之ヲ教エント欲ス文化末年備後守資始代備後守ハ追書也此目前備中守ト稱ス前ノ教授松崎慊堂ニ命シ五倫口解ヲ撰

ヘシメ之ヲ刻ミ亦封内ニ頒布ス此皆唯民之父兄ヲ教ユルノミニ非ス亦其子弟ヲ教ユル所以也

これを見ると、文化年間の明確な時期ははっきりしないが太田資順、資言の代に「慶安御触書」と「六諭衍義諺解」を版行し、文化末年、太田資始が松崎慊堂に命じて作らせたとある。

また、「五倫口解」の跋文に  
此五倫口解は、六諭衍義の出たる本源を、年々に学問所におひて、講釈せし通りに、書つゞり、御領内すみくまでの百姓中にも、しらしめよと、公の仰を蒙りて、前の教授役松崎復、師友に聞る所を、とりえらみて、拙き筆にした、め畢ぬ。 門人 小崎展書 とある。

なお、松ヶ岡・山崎家（掛川市南西郷）の蔵書目録『以善堂蔵書目録』の中の第四函に「五倫口解 壹冊」とある。この山崎家に伝来した「五倫口解」は文化年間に版

行されたもので柴山藩知事により版行された原本と思われる。この『以善堂蔵書目録』は現在、関西大学図書館に収蔵されている。この目録はもともと書誌学者・長澤規矩也氏が収集していた古書類の中にあり、それらが関西大学図書館に収蔵されたことから現在に至っている。

また、天理大学付属天理図書館にも、おそらく文化年間版行の「五倫口解」が収蔵されている（「GINJI Books 大学図書館の本をさがす」による）。

これまでの調査によれば「五倫口解」の所蔵は

掛川市二の丸美術館（明治三年の版）

関西大学図書館（文化年間の版）（元

掛川・山崎家に伝来し書誌学者・長澤

規矩也氏を経て収蔵された）

天理大学付属図書館（文化年間？の版）

成田山霊光館（明治三年の版）

そのほか、ネット検索によるとアメリカの大学の図書館にも収蔵されているようである。

## 【翻刻】

凡例

一、適宜改行した。

二、底本には句読点が施されていないので、通行の句読点「。」「、」。「・」を用いて、語句・文章の区切れを示した。

三、漢字は原則として現在通行の字体を使用した。舊 ↓ 旧、學 ↓ 学など。

四、合字は通行の字体にあらためた。

五、送り仮名は原文ではカタカナであるが平仮名に統一した。

六、翻刻にあたり『芝山町史 資料集4 近現代編』を参考とした。

五倫口解

明倫大意

世の中に道なければ、一步も行きがたし。人にして道なきも又しかり。人の道といふは、五倫にあり。倫は類也。序なり。父子一類に

して、其道を親とす。君臣一類にして、其道を義とす。夫婦一類にして、其道を別とす。長幼一類にして、其道を序とす。以上四倫は、いづれも、尊卑の序あり。朋友一類にして、其道を信とす。此一倫には、必尊卑の序はなけれども、父子君臣夫婦長幼に連りて、前の四倫も、此朋友の助けに依るもの故に、自ら序の義を具ゆ、孟子に、人倫上に明かにして、小民下に親むとあり、明とは、其道を知る事也。其道を知るは、其事を行ふため也。今其訳を一々述ぶべし。

父子有親

父といへば、母もこもれり、子は父の気を、母の身にうけて、成せるもの。父なければ、母も子を生みなす所なし、故に父子といふて、母もこもる也。親とはしたしみ也。父子もと一体也。今其身分れて、二人となれども、父母生みなせる子なれば、父母の身は、とりもなをさず子の身、子の身はとりもなをさず父母の身にて、気血呼吸、皆ともに通ふ、これほどのしたしみ、外にあらんや。故に父母の子を思ふは、我頭や目の、手足を見るやうに

いたはり、子の父母を思ふは、我手足の、頭や目をまもる程に自然なるを、親といふ。これ父子一倫、自然の道にて、人皆生れ付たるもの也。此道を生れ付ながら、父子の間、したしからざるは、其道の明かならぬ故なれば、聖人其生れ付たる道を、さし出して、したしくせよと教へたまふ、是五教の第一也。

#### 君臣有義

君といふは、人を司り治るの名にして、上は天子より、下一国一郡一家の長までもこもり。臣といへば、上大臣公卿より、下は家子郎党、惣じての民、又は其奴婢までもこもれり。君臣は、世に主従といふもの也。義は、よろしき也。彼と此とくみ合ふて、ぐあひよきをいふ也。君は上に立ち、下をあわれみ、礼を守りて、治め養ひ。臣は下に居て、上を敬ひ、実意を以て、其職分を竭して仕へ奉る。彼と此とくみ合て、ぐわいよき、自然の道にあらずや、君尊しといへども、臣の敬ひて、実意を以て、各其職分を竭して仕へざれば、君の尊きを失ふ。臣実意を以て、其職分を竭すといへども、君の下を憐み、礼を守りて、治め

養ふにあらざれば、臣の身の置所なし。されば君と臣とは、父子の親の如く、自然のものにあらざるに似たれども、其道は、かくなければならぬなれば、此又自然に生れ付たるもの也。これ君臣一倫の道也。此道をば自然に生れ付ながら、君臣の際よろしからざるは、其道の明かならぬ故なれば、聖人其生れ付たる道を、さし出して、よろしくせよとをしへたまふ、是五教の第二也。

#### 夫婦有別

夫は、男の妻あるの名にして、婦は、女の夫ある名也。別とは男は強く、女は弱く、男は剛に義を守り、女は順に貞信を守り、男は外に居り、女は内に居り、男は耕し、女は織といふやうに、男は男の定り、女は女の定りの、自然と生れ付たるもの、此を男女の別といふ。さればいまだ夫婦とならぬ男女、右たがひに往来交際なすべからざるは勿論の事、衣服飲食内外出入ともに、人の嫌疑おもわくを遠さかるべし。其男女を組合せて、夫婦とすれば、夫は剛、婦は柔、夫は義を以て妻をひき、婦は貞信にして、夫を助け、夫死したりとも、二夫に

つかへず、是夫婦自然の別、夫婦一倫の道にして、五倫の始め也。然れども、其教へ明かならぬより、夫は婦の色におぼれ、いつしか夫の剛を失ひ、義を以て婦をひきゆることあたはず。婦は夫の寵に乗じて、其柔順を失ひ、其夫をして、父子兄弟の親をも失はせ、終には家の外事、国の改革までを、みだるにいたる。これは別なきの致す所也。それ故に、聖人生れ付たる自然の道をさし出して、別を守れとをしへたまふ。是五教の第三也。

#### 長幼有序

長は兄にて幼は弟也。それを長幼といふは、兄弟を本として、すへて交る所の目上の人、目下の人、年上の人、年下の人までに、推していふ也。序はついでにて、天より自然に立たる次第也。兄は先に生るれば、先に立て、弟を導き、弟は後に生れたれば、跡につきて兄に従ふ。同気連枝のしたしみ、父子とともに、離れまじければ、兄のいとをしみ、弟のすなほ、各自ら身を責て尽すべし。目上目下、年上年下は、国にもあれ、家にもあれ、道をゆくにも、席につくにも、皆各其人あり。目

上目下は、表立場所にては、位を以て長幼に  
准ずれども、位をいはぬ所にては、いづかた  
も、年上は兄の如く年下を導き、年下は弟の  
如く年上に従ふ。道ゆくにも、飯食ふにも、  
目上年上の跡につきて、敬ひ崇み、又目上年  
上は、目下年下をあはれみて、あしからじ、  
よかれとみちびき、相たがひに、思ひ和らぎ  
したしみて、次第みだれざるべき故に、序を  
其道とす。是長幼一倫の道也。兄弟を始め、  
すべて交る所の、目上年上の人、目下年下を  
なやまし、目下年下の人、目上年上を侮りた  
らんには、争ひ奪ふ事起りたちて、家も国も、  
をさまらざる也。故に聖人其道をさし出して、  
守り行へと、をしへたまふ、是五教の第四也。

#### 朋友有信

上文四件の人倫の外なる、疎遠の中に就て、  
心ざし同じく思ひ合たる人と、ちなみを結び、  
物習ひ、業つとむる事まで、ともくにかたら  
ひ、何事も、たがひに相謀り、相たすく、こ  
れ朋友の道也。朋とは、なかま也、友とは、  
心の合たる也。師弟の間も、友の年たけ、才  
徳すぐれたるに、年少きが従ひ学ぶ也。上の

四倫の明かに、かつ行はるゝも、全く師友の  
助けによる事なれば、其道もつともおもき  
故に、朋友の交り、五倫に列る。推してのほ  
せて師にいたれば、師の恩は、君と父とにひ  
としきもの也。信は、偽なきにて、心に思ふ  
真実と、口にいふ言と、ちがへぬ也。故に朋  
友の交りは、心に思ふ真実を、口にもいひ、  
身にも行ふて、たがひにつゝまず、かくさず  
して、善あればすゝめ、過あれば諫て、とも  
くに、善き人物となんとする故に、むす  
べる因なれば、いつはりなきといふ信を、其  
道とす。此信といふ道なき時は、たゞよのつ  
ねの疎遠人にて、朋友といふべからず。此又  
天地自然に出たる、朋友一倫の道也。此道明  
かならざれば、上の四倫もをさまらぬ故、聖  
人さし出して、をしへたまふ。此五教の終也。

#### 明倫総論

右五倫の教へは、唐堯の時、舜といふ聖人、  
天子の位を撰したまひて、殷の先祖契といふ  
賢臣に仰せて、五教を民間にあまねく施し敷  
せられたる事、尚書に見えたるを、孟子滕文  
公の篇に、父子有親より、朋友有信の五句に

説れたるは、すなはち契の教へられし五教の  
伝りたるを、挙げられたるもの也。惣じて天  
地の間に生れたる万物の中に、人より貴きも  
のはなし。人のたつときは、此五倫の類明か  
に分れて、親義別序信の道を、生れ付てもて  
ざる故也。禽獸は、母ある事を知りて、父を  
知らず、故に父子の親なし。弱きが肉は、強  
きが食にて、強弱たがひに相食ふにいたれば、  
君臣の義なし、雌雄牝牡うちみだれて、定め  
るつがひなければ、夫婦の別なし、前生後生  
の分ちなければ、長幼の序なし、各其教を以  
て群をなせば、朋友あるに似たれども、其利  
を見れば、たがひに争ひ奪ひて、朋友の信な  
し。人は此道を生れ付てもちながら、聖人の  
教へなければ、禽獸の行ひとなるこそ、あさ  
ましけれ、これ古の聖帝明王の、うれひなげ  
きたまふ事にて、後代明君賢相の、心を盡し  
て、民を教へ導きたまふ所也、故に人倫の道  
明かなれば、世治りて、風俗よし、人倫の道  
明かならざれば、世みだれて、民も足を置く  
所なし、宛禽獸にことならず、人々よくこゝ  
に心をつけて、ゆめく禽獸の行ひに、おち  
いらぬやうに、すべきことならずや。

さきに、慶安の御触と、享保中の六論衍義諺解を、板にきざみて、御領内にくだされたり、慶安の御触は、百姓の生業を立候やう、孔子の宣ひたる、民を富しむる也。享保の六論衍義諺解は、百姓の行跡を脩るやう、孔子の宣ひたる、民を教る也。いつれもありがたき御趣意は、読してしるべし、諳じて行ふべし。此五倫口解は、六論衍義の出たる本源を、年々に学問所におひて、講釈せし通りに、書つゝり、御領内すみぐまでの百姓中にも、しらしめよと、公の仰を蒙りて、前の教授役松崎復、師友に聞る所を、とりえらみて、拙き筆にしたゝめ畢ぬ。

門人

小崎展書

此書は、往ぬる年の頃梓に彫りて、旧領へ頒ち与へし文なるを、今の清く明らけき御世にあたりて、古る事の採るべきあるは、用るとおほきやかに、あり難き御趣意を仰きたてまつり、御國恩の万一に報ひ奉らん。我等か願をも路人たちと共にせんと、先きの梓の残り居しを再び與て、爰許の管轄中へ頒ち与るな

り。いつれも此意をうけたまはり、己れくか身に受けて能々読みわけ、朝な夕な怠らざるやうつとめ励むべきもの也。

明治庚午八月

柴山藩知事

慊堂先生臨素公千字文 一卷

(朱文方印) 第八十二本

太田松子氏寄贈

江戸時代(天保二年、一八三一)

松崎慊堂書 紙本墨書

縦 三一・三cm×横 二二・四・八cm

紙継ぎ状況(横の長さ)

- 第一紙 四四・七cm (16行)
- 第二紙 四四・八cm (16行)
- 第三紙 二七・五cm (10行)
- 第四紙 一七・〇cm (6行)
- 第五紙 四四・八cm (16行)
- 第六紙 三六・〇cm (9行+4行)

(第五紙と第六紙との間、およそ6行分、77字が欠損している。)

(巻頭)

草書千字文

勅員外散騎侍郎周興嗣次韻

沙門懷素字藏眞書

天地玄黄・・・(以下略)

(巻末)

貞元十五年六月十七日於零陵時六十有三

辛卯陽月二十一日臨於羽澤庄

中□□室松崎復少於素公

僅二歳也 松崎復(白文白印) 明復

(原本の懷素が書いたのは貞元十五年(西暦七九九年)六十三歳であるが天保二年十月、自分は二歳若いと書いている。「第八十二」は千字文の八十二番目の書写である。)

(別紙) (太田資業の跋文)

縦 三一・三cm×横 二四・〇cm

慊堂先生經史之餘又善筆

机余嘗聞其屢臨素公千字文

今茲壬寅六月二日偶游松尾□

其後嗣行觀之蒼秀高逸

饒足風韻嗚呼先生齡過耳

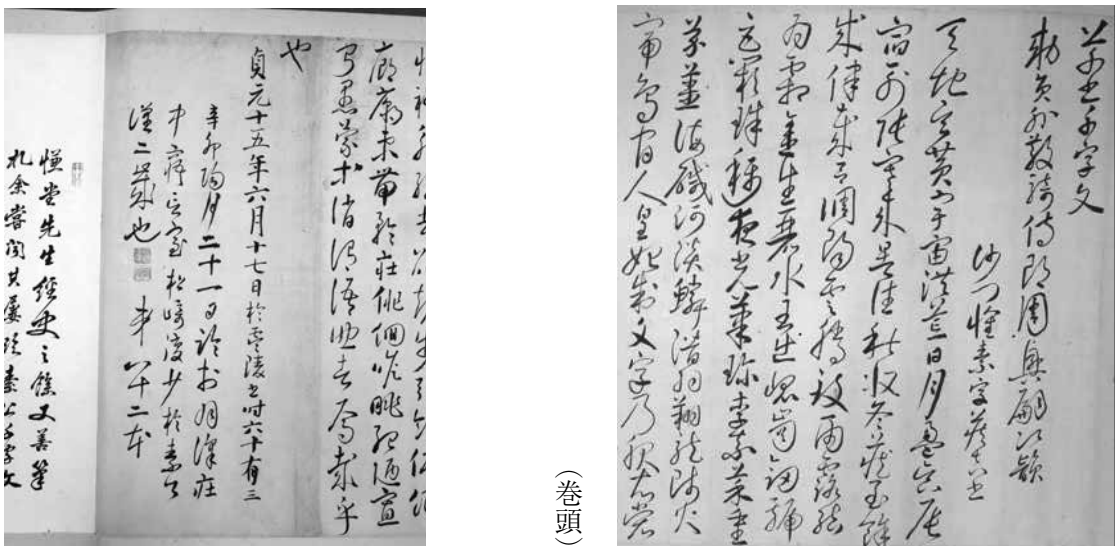
順尚且刻意臨摹如此古人

勤勉眞可為後生龜鑑故請

得之遂題數語於其後云

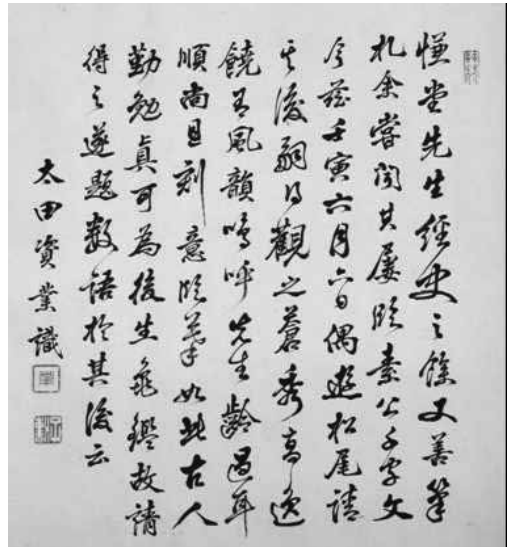
太田資業識

印 印



(巻頭)

(巻末)



(太田資業跋文)

【解説】

松崎謙堂（まつざきこうどう）が漢字を学ぶことと習字のために中国の懷素（かいそ、今から約千三百年前の書家）の書いた千字文を手本にして書いたもの。松崎謙堂（一七七一一一八四四）は現在の熊本県益城郡御船町の出身で若くして江戸（東京）に出て儒学（江戸時代の基本的な学問）を学び、その能力が認められ、享和二年（一八〇二）掛川藩主太田資俊に掛川藩校教授として召し抱えられ、掛川藩の若い人々を教える先生として採用された。当時は藩で働

く人々は江戸にも滞在しており、松崎謙堂は主として江戸で藩士を教育したが掛川にもやって来て教育した。文化十一年（一八一四）、隠居し、その後は各藩に出講するとともに、渋谷に別宅を設け、そこで子弟の教育に励んだ。晩年の仕事としては中国の基本となる書籍の刊行に努め、田原藩士・渡辺崋山の蛮社の獄では救済に奔走したことが知られている。

懷素の千字文

千字文は中国・梁の時代（今から約千五百年前）、武帝の命により周興嗣（しゅうこうし）という学者が作った漢字四字の語句を二五〇組、合計千の字を使って作られている。中国で漢字の意味を学んだり習字の手本として使われた。

千字文の手本を書いた懷素は中国・唐時代の書家。草書の名人と言われ、松崎謙堂が手本とした懷素の千字文は一文字が千金に値するほど素晴らしいと言われ千金帖とも呼ばれた。

松崎謙堂の千字文

漢字を学ぶことと習字のために懷素の手本を見て書いた。終わりのところに「八十二本」と書いてあるがこれは

八十二番目に書写したものとということ。「辛卯陽月二十一日」（天保二年十月二十一日）、六十一歳のときに書いたものである。松崎謙堂が書いた日記（『謙堂日曆1〜6』（東洋文庫、平凡社）を見ると、天保二年十月二十一日（3巻）に「千文（第八十二本）を終る」とあり、第2巻の文政十一年七月十三日（五十八歳）から千字文の書写をはじめ、百本完成したのは天保三年二月二十三日で六十二歳の時である。この日の記事に「もし天が長生きさせてくれ十年以上長生きできて、七八百本書いたら、草書は一人前になるであろう」と書いている。

現存状況

ここに書かれている字は九百二十三字である。七十七字はカットされている。一行十二字から十三字であることから、おそらく六行分がカットされた。これは松崎謙堂が書いた千字文と懷素の書いた千字文を一字ずつ照らし合わせると松崎謙堂が書いたものは七十七字少なかったのが判明した。

カットされた部分

- 老少異糧 妾御績紡 侍巾帷房 紈扇圓潔
- 銀燭煌煌 晝眠夕寐 藍筍象床 絃歌酒讌
- 接盃舉觴 矯手頓足 悅豫且康 嫡後嗣續

祭祀烝嘗 稽顙再拜 悚懼恐惶 牋牒簡要  
顧答審詳 骸垢想浴 執熱願涼 驢

### 太田公と千字文

千字文の最後に太田公の子孫の太田資業（一八八二〜一九五六）がこの千字文について書いている。明治三十五年（一九〇二）六月二日、二十一歳のときに、千葉県の松尾を訪れ、この千字文を見て書がすばらしい、と思った。そして六十歳を超えても勉強をしている松崎謙堂先生の様子は私たちの手本とし学ぶべきことである、と書いてついに入手したと記している。

### 【千字文】全文

天地玄黄 宇宙洪荒 日月盈昃 辰宿列张  
寒来暑往 秋收冬藏 閏餘成歲 律呂調陽  
雲騰致雨 露結爲霜 金生麗水 玉出崑岡  
劍號巨闕 珠稱夜光 果珍李柰 菜重芥薑  
海鹹河淡 鱗潛羽翔 龍師火帝 鳥官人皇  
始制文字 乃服衣裳 推位讓國 有虞陶唐  
甲兵伐罪 周發殷湯 坐朝問道 垂拱平章  
愛育黎首 臣伏戎羌 遐邇壹體 率賓歸王  
鳴鳳在樹 白駒食場 化被草木 賴及萬方  
蓋此身髮 四大五常 恭惟鞠養 豈敢毀傷  
女慕貞絜 男效才良 知過必改 得能莫忘

罔談彼短 靡恃己長 信使可覆 器欲難量  
墨悲絲染 詩讚羔羊 景行維賢 克念作聖  
德建名立 形端表正 空谷傳聲 虛堂習聽  
禍因惡積 福緣善慶 尺璧非寶 寸陰是競  
資父事君 曰嚴與敬 孝當竭力 忠則盡命  
臨深履薄 夙興溫清 似蘭斯馨 如松之盛  
川流不息 淵澄取映 容止若思 言辭安定  
篤初誠美 慎終宜令 榮業所基 籍甚無竟  
學優登仕 攝職從政 存以甘棠 去而益詠  
樂殊貴賤 禮別尊卑 上和下睦 夫唱婦隨  
外受傳訓 入奉母儀 諸姑伯叔 猶子比兒  
孔懷兄弟 同氣連枝 交友投分 切磨箴規  
仁慈隱惻 造次弗離 節義廉退 顛沛匪虧  
性靜情逸 心動神疲 守眞志滿 逐物意移  
堅持雅操 好爵自縻 都邑華夏 東西二京  
背邛面洛 浮渭據涇 宮殿盤鬱 樓觀飛驚  
圖寫禽獸 畫綵仙靈 丙舍傍啓 甲帳對楹  
肆筵設席 鼓瑟吹笙 升階納陛 弁轉疑星  
右通廣內 左達承明 既集墳典 亦聚羣英  
杜彙鍾隸 漆書壁經 府羅將相 路俠槐卿  
戶封八縣 家給千兵 高冠陪輦 驅轂振纓  
世祿侈富 車駕肥輕 策功茂實 勒碑刻銘  
磻溪伊尹 佐時阿衡 奄宅曲阜 微且孰營  
桓公匡合 濟弱扶傾 綺迴漢惠 說感武丁  
俊乂密勿 多士寔寧 晉楚更霸 趙魏困橫  
假途滅虢 踐土會盟 何遵約法 韓弊煩刑  
起翦頗牧 用軍最精 宣威沙漠 馳譽丹青  
九州禹跡 百郡秦并 嶽宗恆岱 禪主云亭  
雁門紫塞 雞田赤城 昆池碣石 鉅野洞庭

曠遠縣邈 巖岫杳冥 治本於農 務茲稼穡  
俶載南畝 我藝黍稷 稅熟貢新 勸賞黜陟  
孟軻敦素 史魚秉直 庶幾中庸 勞謙謹敕  
聆音察理 鑑貌辨色 貽厥嘉猷 勉其祗植  
省躬譏誡 寵增抗極 殆辱近恥 林皋幸即  
兩疏見機 解組誰逼 索居閑處 沈默寂寥  
求古尋論 散慮逍遙 欣奏累遣 感謝歡招  
渠荷的歷 園莽抽條 枇杷晚翠 梧桐早凋  
陳根委翳 落葉飄颻 遊鷗獨運 凌摩絳霄  
耽讀翫市 寓目囊箱 易輜攸畏 屬耳垣墻  
具膳飡飯 適口充腸 飽飫烹宰 飢厭糟糠  
親戚故舊 老少異糧 妾御績紡 侍巾帷房  
紈扇圓潔 銀燭輝煌 晝眠夕寐 藍笋象床  
絃歌酒讌 接盃舉觴 稽顙再拜 執熱願涼  
牋牒簡要 顧答審詳 骸垢想浴 捕獲叛亡  
驢驟犢特 駭躍超驥 誅斬賊盜 鈞巧任鈞  
布射遼丸 嵇琴阮嘯 恬筆倫紙 俯仰廊廟  
釋紛利俗 並皆佳妙 毛施淑姿 工顰妍笑  
年矢每催 曦暉朗耀 璇璣懸幹 晦魄環照  
指薪修祜 永綏吉劬 矩步引領 俯仰廊廟  
束帶矜莊 徘徊瞻眺 孤陋寡聞 愚蒙等詘  
謂語助者 焉哉乎也

（行書体の七十七字が欠損。およそ六行分と推定される。）



---

**掛川市二の丸美術館年報**                      **平成29年度**  
**掛川市ステンドグラス美術館年報**    **平成29年度**

発行日    平成31年2月28日  
編集・発行    掛川市二の丸美術館・掛川市ステンドグラス美術館  
                 〒436-0079 掛川市掛川1142-1  
                 TEL 0537-62-2061 FAX 0537-62-2062  
印        刷    株式会社ケイ・アート

---